

震災鍼灸マッサージボランティア「はりきゅう便」活動記録

(平成23年6月5日・6日 宮城県石巻市)

報告者: 四谷左門町鍼灸院 中野朋儀

活動場所: ・石巻市青葉中学校(6月5日9:00~17:00)

鍼灸マッサージ師1名、鍼灸師1名、助手(鍼灸学校学生)1名

・石巻市図書館(6月6日9:00~12:00)

鍼灸師1名

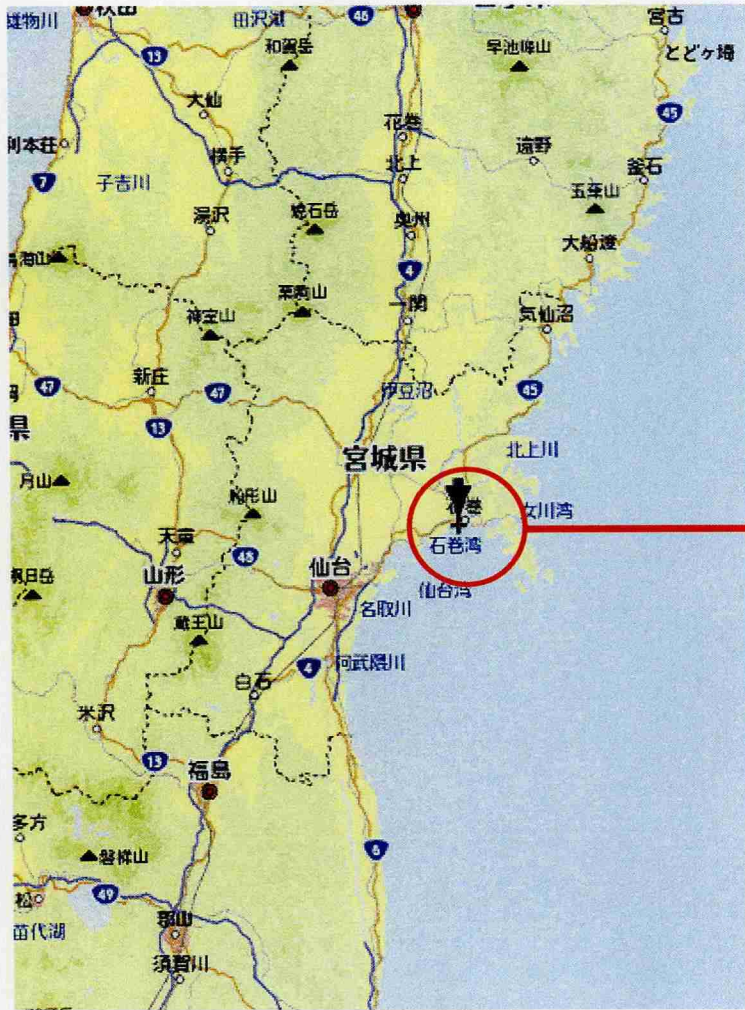
・石巻市河北総合センター(ビッグバン)

(6月5日 9:00~17:00) (6月6日9:00~12:00)

鍼灸マッサージ師2名、助手(一般ボランティア)1名

活動拠点: ひたかみ園(知的障害者更生施設)に宿泊(6月5日)

宮城県



石巻市

石巻市河北総合センター
(ビックバン)



ひたかみ園

青葉中学校

石巻市立青葉中学校(生徒数370名13学級)石巻市の中でも東松島市に近い所に位置し、震災時1300人が避難されていた。



- ・校舎1階の玄関前に災害対策スタッフが常駐している。
- ・6月5日現在、校舎2階と体育館に300人程度の人々が生活している。
- ・仮設住宅は抽選で行われるようだが、移動手段がない方も多く、抽選に当たっても行けない方も少なくないようだ。
- ・校庭に自衛隊の仮設お風呂が設置されている。

校舎1F「そうだん室」を借りて治療スペースに！



- ・手作りの案内板
- ・入口前で助手(鍼灸学校学生)1名が血圧測定、問診票記入、治療予約、施術希望をマネジメントする。
- ・患者数 20名
(鍼11名 マッサージ9名)

鍼灸マッサージ師1名、鍼灸師1名で治療を担当する。避難されている方の施術終了後、中学校の先生が3名施術を希望された。中学校の先生方のケアも定期的に必要だと感じた。治療室向かいの部屋で医科大学の医療検診があった。

お昼に自衛隊の炊き出しをいただきました。

「温かい物が頂けてありがたい」「震災直後は小さいおにぎり1個だけだったから、食べ物のありがたさがよくわかる」と避難所の方々がおっしゃっていました。



1人分のメニュー(3人分)

- ・じゃがいもとコンビーフの炒め物
- ・野菜の中華炒め
- ・菜っ葉と卵のみそ汁
- ・ご飯
- ・お茶

ひたかみ園(知的障害者更生施設)

室内食堂前のスペースにテントを2つ設営し、1つは施術スペースとして使い、もう一つは就寝用に使用している。

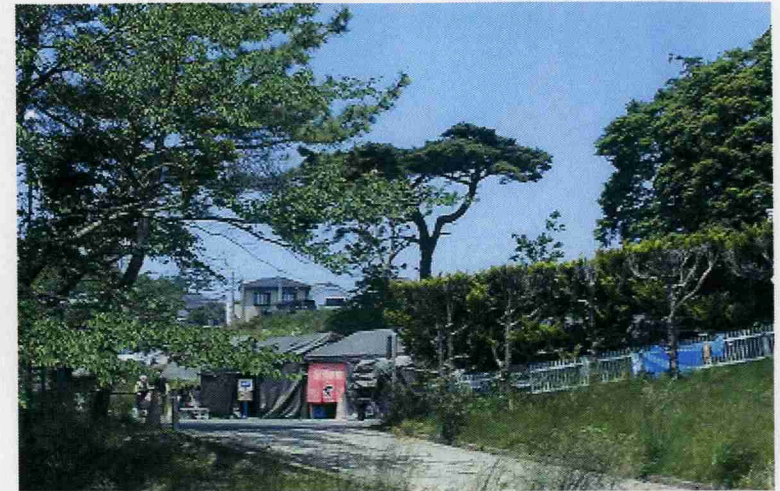


受付テーブルと施術テント



5日は、日中気温が高く半袖で過ごせ、夜になっても気温が下がらず、テントの外で寝袋で就寝する。

石巻市図書館



自衛隊の仮設お風呂が設置されて、
近隣の方々が利用されている。

- ・ 2階の読書室と多目的室に30人位で避難生活をされている。
6日は、読書室(11区5人滞在)多目的室(4区4人滞在)に9人滞在していて、そのうち半分位の方が外出された。
- ・ 鍼灸師1名で9:00から2部屋のフロアーを廻り3名(鍼1名 マッサージ2名)の方へ施術ができた。
- ・ 図書館として明後日から一部開館するため、スタッフの方々があわただしく作業されていた。

石巻市河北総合センター (ビッグバン)

- ・500人程度の方が避難生活されている。
- ・鍼灸マッサージ師2名
助手(一般ボランティア)1名で活動
- ・患者数:6月5日36名
6月6日17名



鍼灸マッサージのニーズは非常に高い。来室出来ない希望者のところへの訪問はほとんど出来なかった。(トレーニング室の5名のみ。来室した患者様から、「歩いてこれない人結構いるから、行ってあげてほしい。」といわれたが、対応出来なかった。昼間からアルコールの入っている人も治療を受けにくるが、特に問題はなかった。毎日「お茶のみ会」を実施し、上手に口腔ケアの啓蒙活動していた。

施術時間の設定は、食事の時間・イベントの時間・入浴の時間等を事前に把握する必要があった。基本的に、皆体はガチガチ。施術期間中、血圧210以上/120以上の人が2人いて、夜トイレに行こうとして転倒、顔面打った人が1人いた。リハビリを必要としている人も10人以上はいたようだ。看護師6名保健師2名常駐(?)、看護師3名に挨拶したが、感染症に注意してほしいと言われた以外、医療連携をとる余裕はないという感じだった。日赤病院から医師がきて、医療相談会をひらいているということだったが、利用する人が少なく、職員の方ふくめ、各分野の人々をとりまとめたり、連絡したりする要の人がいなかった。